

牛久：学校周辺に見る自然

第9号

ひたち野西近隣公園（ひたち野うしく小学校）

2011年5月14日発行

< 水辺公園の春 ～ ⑦ その他の虫たち >

4/20(水)、ひたち野うしく小4年生の水辺公園、春の生き物観察。最後に、皆さんが見つけて教えてくれたハナアブやトンボ、アブラムシの仲間と、クモやダンゴムシなどのご紹介します。さて、昆虫とクモやダンゴムシの違い、さなぎになる昆虫とならない昆虫の違い、覚ええましたか？

(1) キタヒメヒラタアブ（ハナアブ科）



オオイヌノフグリにキタヒメヒラタアブ♀

に近い仲間で、もちろん毒針どくばりなど持っていませんから、刺きされることもありません。だから、近くによって写真を撮とっていても平気です。アブの中にはごく少数ながら刺す（正確には、口で吸う）ものもいますが、ハナアブは花蜜はなみつや花粉、樹液をなめるだけです。この「なめる口」や「触覚しょつかく」などを観察すると、ハエのそれとよく似ていることがわかります。



ハルジオンにキタヒメヒラタアブ♀

ハナアブの仲間は、お腹の黄色と黒のしま模様などから、よくハチに間違えられますが、実はハエやアブ

(2) ナナホシテントウ(左)とナミテントウ(右) (テントウムシ科)



テントウムシについては、22年度9～11号で詳しく載せていますので、そちらをご覧ください。それにしてもナミテントウは、同じ種なのに模様もようがいろいろで、いつも不思議に思います。

さて、前号のチョウの仲間と今回のハナアブの仲間、テントウムシの仲間などは、さなぎになる完全変態かんぜんへんたいの昆虫でした。幼虫と成虫で食べものや生活が大きく変わり、そのためさなぎ蛹の中で体のつくりを大きく変えるのでしたね。

(3) アジアイトトンボ (おす) (イトトンボ科)



「先生、とんぼ〜ッ！」って、呼んでくれましたね。近眼、老眼の私には、すぐには見つけられませんでした。指さしてくれた方をじっと見て、分かりました。飛んでくれないと、ちょっと気がつかないかもしれません。腹部の先端が青いのが特徴ですが、アオモンイトトンボなどよく似たイトトンボもいます。4月〜11月まで見られ、春〜初夏に羽化した成虫は比較的大型ですが、夏の終わり頃に羽化するものは小さいようです。

トンボの仲間や次のアブラムシの仲間、カマキリの仲間などは、食べ物も体のつくりも大きくは変わらないので、蛹の時期がなく、不完全変態と呼ばれていましたね。



(4) マメアブラムシ (アブラムシ科)

カラスノエンドウに黒いアブラムシがついていたら、このマメアブラムシです (緑ならソラマメヒゲナガアブラムシ)。そして、これも22年度10, 11号で説明しましたが、アブラムシがたくさんいると、たいてい近くにアリやテントウムシがいます。探してみましょう！なぜいるかって？ それは22年度の通信を見てね！

(5) オオカマキリ (卵のう) (カマキリ科)



オオカマキリの卵のうを見つけてくれました。まだ孵化はしてなかったようです。日本最大のカマキリで、チョウやバッタなど生きた昆虫を食べます。家で飼うときは、死んでる昆虫やベーコンなどでも、割りばしでつまんだり糸でつるしたりして、眼の前で動かしてやると飛びついて食べます。私は子どもの頃 (今でも時々)、カマキリの卵のうをとってきて家の中の鉢植えにさして置いたりして、

忘れた頃に幼虫がいっぱい孵化していきながら死んでいくことがあります。皆さんも気をつけて…。

(6) ウツキコモリグモ (コモリグモ科)



「子守蜘蛛」なのです。変わったクモもいるものですね。

(4) ダンゴムシ (ダンゴムシ科)

これも脚がたくさんあるから昆虫ではないですね。エビやカニなどと同じ「甲殻類」の仲間に入ります。石や落ち葉の下にいて、落ち葉などを食べるおなじみの虫ですが、ヨーロッパからの帰化動物なのだそう。



【理科支援員 宮内】